

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No.12 昭和55年6月発行 福岡県専門員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 ひかり共同作業所

厚い壁に無力な 社協の障害児対策

大川市社協 永田 啓造

まさに思いつきの発想ではない社協の事業の一つに、在宅障害児への物品の贈呈というのがある。そのなかで「障害児の存在を誰にも知られたくない」という、親の強い意志(課題)を改めてつきつけられた。

どこの社協でも在宅障害児家庭の実態把握については頭の痛いところであるが、既存の行政資料の中からの把握方法の一つとして、特別児童扶養手当の受給者(在宅の重度障害児)がある。つまり、物品サービスの対象児として



【昨年の広報紙には、よくこんな写真が登場した。五十六年は、おそらく車のいすの場面が多く登場することだろう。いずれにしてもその年だけのイベントでは、当事者にとっては一陣の風になってしまふ。社協の皆さん私たちの瞳を忘れないで。】

この受給者で線引をしたのである。さて、問題発生状況を簡単に要約する。物品の贈呈方法として、民生委員経由としたのであるが、障害児の存在を知らない人があまりにも多く、このことも問題であった。ある家庭が、障害児の存在が、社協、福祉事務所と地域を結ぶ民生委員にさえも知られてしまったということで、特別児童扶養手当の担当職員にひどい抗議を行なったのである。おそらく、担当職員以外は誰も知らなかったであろう。

誰にも知られることなく手当を受給し、それ以外は一切拒否する、という親の姿勢を思い知らされたこと自体、ショックが大きいがあとで調べた結果その受給者名簿(四十九名)と、親の会が独自に調査したもの(四十二名)の比較が相互に二十二名と十七名の差違が見られたことである。つまり、前者の中に後者の名前は二十七名しかおらず、二十二名は親の会とのかかわりを拒否していると考えられる。

親の非社会性がこのような調査のすれちがいとなって表われ、その数に、今後の社協活動をどうすすめていいのか、まったく自身が持てない。今後のとりくみのきっかけをどこに見出そうか、又それが見出せたからといって現状の社協体制のままどこまで対応でき、責任ある行動がとれるだろうか。子どものしあわせ、親のしあわせとはいったいなんだろうかと改めて問直し、投げかけていきたい。

10年続いている 「1日お父さん行事」

甘木市社協 上野和秋

甘木市に於て「1日お父さん行事」を本年五月十一日に行った。市と社会福祉協議会の共催による本行事は、十年以上にもなると思われるが、毎年一回行われ継続されてきた。

場所、行先、参加人員の、多少の違いはあるにしても、一日一緒に行動を共にし、心と心の触れあいをつよめ、母子家庭の明日への生活に、大きな心の支へを強めようとする考えを、行事内容に創意工夫を施して来た。

当日は幸に天候にも恵まれた。午前八時三十分市役所の北玄関前に集合し一号車より五号車の順に整列し、出席者の点検の後、一日お父さんよりそれぞれ挨拶を受ける。続いて係より当日の日程、注意事項その他説明の後、各号車に乗り込んだ。

西鉄観光バス五台には、参加人員一五〇人搭乗し、各号車に市職員、社協職員二名乃至四名配置し、参加者の世話、日程、注意事項の説明、レクリエーションの指導にあたる。

一日お父さんには、市長、議長、議会の文教厚生委員長、各校区の社協会

長、母子福祉部会の児童委員にお願いし、各車に同乗して貰った。

甘木を九時に出発し、筑紫野市を通り、途中雁ノ巣レクリエーションで休憩をして、十一時三〇分には目的地の海の巾着(奈多海岸)に到着する。

ここで一時近くまで潮干狩を楽しんで、ここで各自用意した道具を手に潮の引いた海にのり貝を拾うことに専念した。時間のたつにつれ、親子で貝を拾いながら楽しい会話がが続いている。今日はすべて好条件に恵まれていると感した。

午後二時に集合、午後二時三十分出発、帰りも同じ雁ノ巣レクリエーションで休憩、筑紫野市を通り午後五時甘木に到着解散した。

甘木市内母子世帯数は
母子世帯二二六世帯、父子世帯一九世帯、準母子世帯一一世帯
寡婦世帯七六七世帯 計一〇三三世帯であります。

寡婦により占める割合が大きいと言われている母子福祉会の構成は、社協民協に於て若年母子世帯の加入について種々論議されてきた。

一、母子福祉会においては各地区の世話人により要因の発生したとき、会合の通知など緊密な連絡をとり努力が払われている。

二、母子福祉会役員と母子福祉部会との会合を行い、若年母子の会への加入促進、問題事項の検討を行い調査研究を行っている。

三、行事による母子福祉の啓蒙、母子の交歓により組織の拡大をはかるため左の行事を行ってきた。

ア、一日お父さん行事
イ、若年母子のボーリング大会
ウ、若年母子研修会

行事が終り反省会の中で、でていることは、十年間に行ってきた一日お父さんの行事についても見学、あるいは運動会で若い一日お父さんと行動を共にした思い出が残っており、又当日色紙が各人に配られ奮起を促す言葉は成長の過程での大きな支えとなるだろう

老人給食事業、入浴サービス事業、寝具乾燥事業等々……何もわかっちゃなくせに、見よう、見まねで、よおやる。歩きながら考え、考えながら歩く……あつちでとんとん、こつちでとんとんである。地に足がついてないとこのこと。

事業は残る……反省は残る……。

社協ばかりがなせ忙しい(グチの心)
いろんな団体とのつきあいもあるし、近頃のように全議のたびに、在宅福祉……在宅福祉いろいろ、ついその気になって、ろくな調査も行わないで、住民福祉向上の為、おれもいっちゃ何かやっちゃれ……ああ何とおれは浮草人間だろうか。

（反論）事業はベストではないが、この事業をはじめたことで地域の中に小さな福祉課題の波を投げかけた事だ

と強い力強い成長を祈るものである。参加について尚欠席者が目立つことは、種々困難な家庭の事情があることと考えられる。

母子福祉活動の推進の中で、たくさん問題が提起されそれぞれ創意され、母子福祉推進員の設置、医療費助成の推進、就労推進への努力、母子家庭の子供の料理教室が実施されていることは目を見はるものがある。今後ご指導を受けながら母子福祉の推進に努力して行きたいと考えます。

① 既存事業に焦点をしっかりと定め、その中での問題点、福祉課題を住民にアプローチしてみたい。

② 本当の幸せ。本当に住みよい社会。とはどんなものかといったような事を考える講座なり研修会、催しを計画してみたい（これは本当の心）

でも、それはそれなりに意味があったのではないか……歩きながら一歩でも住民の参加を得てベストへ持って行くことが大切ではないかと(弁解の心)

反省と理屈をして酒、グチと弁解をして酒、おれという人間は、社協マンになってから急に……忙しい人間になつたような気がする(反省の心)

今年あせらず、こたわらず、ゆっくり歩いてみたい。

(S・O)



協次郎 石通信
久留米松

石通信

=その2=

彼女が中年婦人達と口を交さなくなつたのは五才の時、母親の家出のショックによる。自分の母親的年輪のオバさん達とは口をきかない。幼なくして母を求めながら、家事を父親とやりくりしている彼女も今年十九才。一人、人いろいろとは言うが、彼女の自閉症という名で自らの世界を形成し、身体も小柄。しかし今、養護学校を出て、同じ世代の友人達と働き、目を輝かせての笑顔のすばらしさはたとえようもない程可愛い。今までの奪われた知識や社会体験をとりかえす様な意欲を示している。税金の払える人間を世間や行政は「市民」とみる部分もある



が、ちえおくれの青年達と混り働く彼女の、しぐさ、問いかかけの一つ一つに、お互いを思いやるやさしさに満ちている。「市民」が人間らしさの復権を問う時、彼女達のような厳しい状況下で生きていく人達をもうくむ視点が大切となる。先日の会話の中で「私、同情するって好き」という彼女の言葉がある。この言い方は、優者が劣者を見下しての同情をさしてはいない。相手への思いやりを自己課題として対応する行動をさしている。世の中の形成は強い人だけではなく、よっからなければ生きて行けない人がいることを失念してはならない。久留米の「あすなる会」という、ちえおくれ青年達の簡易通所授産施設利用者一人ひとりが等しく市民であり人間であることをあらためて学ばせてもらっている。今である。

年のT君のことである。彼は働きたいと希望をもっているにもかかわらず受入手がなく、親から自立してアパート暮らしをしている。生活保護を受けているが、彼は近隣住民の陰ぐちを怒りをもって訴えている。「—カラーテレビを親からもらって、みていると家で働かんでテレビばかり見てよか身分ネといい、身障青年の集りに参加して出ると、外に出てプラプラすると家にもおるな、外にもおるなと気にせんつもりでもないやになる」と。栃木の「わらしべの里」の金坂さんの発言と同様、地域住民の理解を促す活動が積極的に展開されないかぎり福祉運動がうわ滑型で終るし、それだけ私達や私の課題が大きいことを押さへべきだと思っている。

二つ目の話しは、市内の重度身障青

三つ目の話しは、地域内の住民活動を

を社協は大胆に支援しようということ。宮崎市の「老後を考える会」の世話をしている岡上さんという女性が、この五年来、情報交換しているが、老後問題の自主講座、福祉映画の観賞、ねたきり老人むけの介護講習など積極的に展開している。彼女が社協へ相談を持ち込んで企画協力がないうという。へたな肩書社協役員や職員より活発なところには「相手の主体性尊重」というカッコイイ危弁で協力やかわりを消極である社協仲間をみる。社協の処世術のうまさだけが目につく所もある。我身として反省したいことである。

市町村社協の動向

先きに法人化して、しました次の社協の専門員が決定しました。

宇美町 宗 嘉則(新) 規
古賀町 藤本省二(新) 規
また、前号以後に法人になった社協と専門員は次のとおりです。

山川町 金子 義勝(新) 規
芦屋町 堂免 侃(新) 規
吉井町 久保田義雄(新) 規

この他の社協でも、専門員の交替したところがありますので、紹介させていただきます。

八女市 牛島 務(退) 職
大野城市 萩原 隆(退) 職

志免町 吉村 正実(局長専任) 規
宗像町 吉田 利木(局長専任) 規
福岡町 綾部 明子(異) 動

黒木町 志水 秀則(新) 規
木下 通(退) 職

立野 光義(新) 規

以上、新しい専門員を加えて、全県で、五十八人となりました。特に、近年若手職員が専門員として採用されてきて、現在のところ二十代が十人をこえました。今後若手が増えていくものと思われませんが、この連絡会への参加と活動を若手に期待します。

レクリエーション、辞書では気晴らし、休養、娯楽などのために行う楽しい活動と書かれているが、レクリエーションとは何か、決定的にレクリエーションとは辞書のごとく、一言に簡明に答えられないのがレクリエーションと私は思う。

ヤングに囲まれ、おとうさんと呼ばれ、三十八才のお腹の出張って足の短い私の姿を想像してみてください。それが、フォークダンス、レクダンス、ゲーム、アクションソングを研究しています。

レクを通じての さわやかな出会い

机の上の福祉より
行動を通して

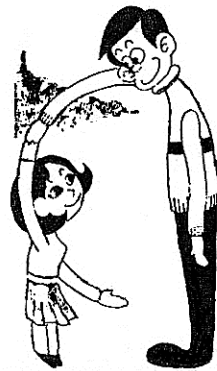
篠栗町社協 飯島 勝吉

我々の仲間はずいに素晴らしい。その一つを紹介しましょう。

二十三才の女性が遠く名古屋に嫁に行く事になった。あと三日で、篠栗を離れるに及び何か記念になる事をしよう、一人の女性が提案する。「よし」と私も若いのだからその話に乗ろうという事になった。そして五人の有志が集まった。仲間の家を会場にして会費不要、各自好物を持参という事になった。そこで何が集まったと思いますか？酒、ウィスキー、ビール、ジュース、夜食と、

一人、一人の人が、あの人はたぶんビールを持って来るでしょうから、私はウィスキーをと言う具合に自然に、自然に心と心の触れ合いが出来ていたのです。さあそれからが大変、秘密にして置きたいのですが、ちょっと皆さんにお知らせしよう。

夜は深々と深まって来る頃も、仲間はまだ踊り続けている。夜が明け、太陽を拝むまで頑張った。皆さんありがとう。涙ながらに、生涯忘れる事のできない記念の日をつくって下さると、この言葉……



専門員とレクリエーションとの関係は、私にとって、地域住民との出会いの場に於いて肩に鞭をよせ、考え込む福祉も大切ではあるが、レクリエーションを通じて地域活動、及び福祉活動への導きも必要ではなからうかと、自問自答し結論の出ないのが本根のようです。多角的に、福祉をみつめて行き行動に移して行っております。

私もレクの二級を取りましたので、レクに関して利用下されば幸いに存じます。

筑後地区 専門員連絡会 の近況

「筑後地区社協専門員連絡協議会」が発足したのは五十四年五月。一回目のつどいは、高田町で。市の部・町村部一ヶ所で、対老人福祉事業の事例発表と協議。二回目が五十五年三月大川市で。次年度事業計画交換とミニ講演。一これが一五十四年度の活動の全て。高田町では、地元老人クラブからゲートボールのコーチを受けたり、大川会場の時、瀬高の清水さんへ登ったりもしている。会費は年額三千元。開催場所は市と町村の交代方式。五十五年度の第一回目は、六月に黒木町で開催。ミニ講演、地元社協説明、広報紙づくりの学習と情報交換がその内容。近隣市町村の相互刺激は専門員(局長義務の人あり)にとって大きな支えにもなっている。是非他ブロックの専門員連絡会からもオプザーバーとして参加して欲しい。料理は五、六百人ものだが、筑後地方の一つ一つの社協と土地の特徴も理解でき、一層の博学者となることうけあいである。今後は専門員だけでなく、役、職員参加の企画も展望したいと思っている。

(追)

- 一、大牟田の奥苑専門員が、自動車免許をとるべく頑張っている。
- 二、筑後の中山君が青年の船で中国へ遊学。顔を黒くして帰国。
- 三、吉井町が五月法人格取得。正式に

仲間と
四立
長交
五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

長交

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの

五月
機関紙
久しぶ
た専門
席。欠
社協に
仕事があ
内容
まなこ
今年度
研修は、
まなこ
発行。今
情報交換
で紹介
だけで
まで送
あるが
や松尾
まなこ
この原稿
し変え
らかさ
れば幸
橋市社協
たもの